

## はしがき

以前に出版した『歴史から読み解く日本国憲法』に続く初学者用の新しい「憲法教科書」の企画の相談を編集部の方舟木さんから受け、「歴史から」に続けて「比較から」としたらどうかという話になった。昨今の時代状況の中で「歴史から」と並んで「比較から」という視点が、「現在」と「日本」の双方を相対化して眺めてみようとする際に重要ではないかと考えたからである。そこで「企画書」には、次のようなことを記した。

「比較」する意味は、昨今のグローバル化をふまえて「現在」の「日本」の憲法状況を相対化しつつ、一方で、日本の憲法状況を「外から」批判的に眺める視点を採り、他方で、日本国憲法の積極的意義を「内から」再確認する視点を見出そうとすることにある。したがって、外国の憲法を取り上げて「参考」のために紹介することだけが重要なのではなく、制度が違う場合、当該国ではそれはどのような状況から生じどのような問題点を抱えているのかを探り、それと異なる日本の制度はどのような意義・問題点を有するのか、日本の制度はどうあるべきなのか等々を考える手がかりを得るようにしたい。また、外国の憲法状況も「相対化」し、外国の憲法状況が「進んでいる」から日本でそれを「参考」にするというような「比較」は避けるようにしたい、と。

そして、そのような「比較」の作業をするのに相応しい研究者仲間に相談をした結果、賛同の意思を表明された全員が編集会議に集まったのは2020年3月半ばのことだった。しかし、COVID-19の影響で、再び編集会議に集まって議論する機会をもつことはできなかった。それに代えて、原稿作成の途中でZOOM会議を開催し、意見交換を行った。その後、原稿が出揃った段階でこれまたZOOMを利用して、共編著者となっていた村田尚紀・塚田哲之両氏と編者会議を行い、必要に応じて加筆・修正等を依頼し、さらに、最終原稿作成を経て初校が出た段階で再度ZOOMでの編者会議を行い、最終的な統一を図るとともに必要な追加的作業をお願いすることとなった。直接集合して編集会議を行えなかったこともあり、執筆者には再三の加筆・修正その他の作業を行うという手数をおかけすることとなった。

ようやく出来上がった本書は、次のような特徴をもっている。

第1、初学者用の「憲法教科書」ということから、憲法学習に必要な項目を網羅し、最新の判例・学説を踏まえつつ、同時に、コンパクトでわかりやすい論述を心がけ、一般市民の方にも読んでいただける概説書となるようにした。その際、参考にさせていただいた文献は多いが、多くの場合その都度引用を明記することはしなかった点をご海容をいただくことをお願いしたい。なお、日本国憲法その他の条文を常に横に置いて参照できるように、冊子を付けることとした。

第2、これに対し「比較」の部分は、学界の一般的議論にとらわれずに、担当者自身の独自の視点をむしろ積極的に打ち出すこととした。そこで、日本での議論とは少し違う観点が得られるかも知れないと思われるものを「比較」の項目として取り上げるようにした。そのため、概説を行う各章の終わりに関連する「比較」を配置した。関心のある部分を読み、「比較」にいくらかでも興味をもっていただけたら幸いである。その手がかりにもなるように、参考にした文献を各項目末尾に掲げ、主要各国の判例の引用等の案内（「各国憲法ガイド」）を目次の後に掲載した。

共編著者の、塚田氏には企画書作りの段階から協力をしていただき、『比較の眼でみる憲法』（北大路書房、2018年）の著者でもある村田氏には「比較」の観点につき助言をいただいた。また、編集部の方には、企画のはじめの段階から最終段階に至るまで意欲的なサポートをいただいた。記して、感謝する次第である。

2022年1月7日

編著者を代表して

倉持孝司